



©菊川市

高齢者見守り情報！

みんなの目

Vol. 19
(平成29年度 第2号)



日ごろ、高齢者の見守り及び相談窓口の周知に御協力いただきありがとうございます。
今回は、認知症についてピックアップし紹介していきたいと思います。

認知症ってなに？

現在、65歳以上の4人に1人が認知症及び認知症予備軍といわれています。では、そもそも認知症とはなんのでしょうか？

認知症は、加齢によるもの忘れと違い脳の病気です。様々な原因で認知機能が低下し、日常生活等に支障をきたすようになった状態をいいます。

認知症の種類

一言で認知症といっても、認知症にはいくつかの種類があります。主な種類とその特徴について紹介します。

アルツハイマー型認知症

一番多い認知症で、脳（海馬）が萎縮することで起こります。

主な症状はもの忘れで、最近のことを忘れ、昔のことを覚えているのが特徴です。

65歳以上で発症することが多いといわれています。

レビー小体型認知症

レビー小体という物質が脳の中に発生し、神経細胞を壊していくことで起こります。

主な症状として幻視、手足の振るえや小刻み歩行が見られます。もの忘れは少なく、人格は保たれます。

脳血管性認知症

脳梗塞、脳出血が原因で発症します。もの忘れは軽度で、人格や判断力は保たれていることが多いです。

感情のコントロールが上手く出来ず急に怒ってしまったり、意欲・注意力が低下するといった症状が見られます。

前頭側頭型認知症

以前はピック病とも言われていました。

性格が変わる、社交性がなくなる、同じパターンの行動を繰り返す、暴力的になるといった症状が見られます。

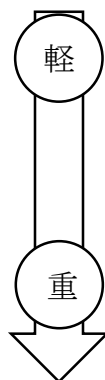
認知症とわかりにくいことが多いです。

認知症のチェックポイント

認知症の種類を紹介しましたが、その人が認知症かどうかを判断することは非常に難しいです。

ここでは、認知症の具体的な症状の一例を紹介します。これに当てはまれば100%認知症というわけではありませんが、気になる高齢者の方かどうか判断する際の参考になればと思います。

症状



- ・ 同じことを何度も繰り返し聞く。
- ・ 疑い深い、怒りっぽくなる。
- ・ お金の管理が難しくなり、財布や通帳などを無くしたり、支払いが1人で出来なくなる。
- ・ 買い物へ行って同じ物を買ってきてしまう。
- ・ 季節に適した服を自分で選んで着ることができない。
- ・ 言葉の理解が難しく、会話がちぐはぐになる。

例えば、どんなに小さい金額でも一万円札で支払ってしまう、毎日大量の食材を買っていく、夏なのにすごく厚着をしている、といった方がいらっしゃれば、もしかしたら認知症かもしれません。

もし、こういったご心配な方がいるようでしたら、菊川市地域包括支援センター(TEL 37-1120)、もしくは菊川市高齢者総合相談支援センター和松会(TEL 73-1818)までご連絡いただければと思います。

ここでご紹介した内容は、市長寿介護課で発行している「認知症安心ガイドブック」に詳しく載っております。

見守り事業所の皆様には配布させていただいておりますので、もしお時間があれば1度目を通してみてください。

認知症安心 ガイドブック



菊川市長寿介護課

認知症安心ガイドブック▶



菊川市地域包括支援センター
住所：半済1865（プラザけやき内）
電話：37-1120
菊川市高齢者総合相談支援センター和松会
住所：赤土1055-1（家庭医療センター内）
電話：73-1818